

経歴

氏名： 川中 豪 (かわなか たけし)

生年： 1966 年

所属： アジア経済研究所地域研究センター
〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉 3-2-2
電話 043-299-9500(代表)
e-mail: kawanaka@ide.go.jp

職歴：

2008 年 - 現在 アジア経済研究所主任研究員
2004 年 - 2008 年 アジア経済研究所副主任研究員
1993 年 - 2004 年 アジア経済研究所研究員

学位：

2004 年 博士(政治学) 神戸大学 (神戸大学大学院国際協力研究科)
1993 年 修士(法学) 早稲田大学 (早稲田大学大学院法学研究科)
1989 年 法学士 早稲田大学 (早稲田大学法学部)

専攻：

比較政治学
新興民主主義研究
制度分析
発展途上国の政治研究
東南アジア政治研究
フィリピン政治研究

客員研究員歴

2006 年 - 2007 年 アテネオ・デ・マニラ大学社会政策公共問題センター兼フィリピン文化研究所客員研究員
2005 年 - 2006 年 スタンフォード大学ウォルターH.ショレンスタイン・アジア太平洋研究センター客員研究員
1996 年 - 1998 年 フィリピン大学社会科学哲学学部政治学科客員研究員
1994 年 - 1996 年 早稲田大学社会科学研究所特別研究員

非常勤等：

2011 年 夏期集中 神戸大学法学部非常勤講師 (地域政治)
2010 年 - 2011 年 (後期) 明治大学政治経済学部政治学科兼任講師 (アジア政治論)
2010 年 - 現在 (春学期) 国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科非常勤講師
(Comparative Politics and Government)
2009 年冬学期 国際基督教大学教養学部非常勤講師 (Politics in Southeast Asia)
2009 年前期 明治大学政治経済学部政治学科兼任講師 (比較政治論[東アジア] I II)
2001 年 - 2004 年 (前期) 成城大学法学部非常勤講師 (地域研究東南アジア)
2000 年前期 駒沢大学法学部政治学科非常勤講師 (東南アジア政治論)

その他：

- 2010年-2011年 外務省平成22年度ODA評価「フィリピン国別評価」評価主任
 2010年-2011年 独立行政法人国際協力機構「フィリピン国別援助実施方針改訂」支援委員会委員
 2008年 - 2010年 平成20～22年度科学研究費補助金（基盤研究B一般）「民主政治における非選出機関の役割：韓国選挙管理委員会の比較研究」（課題番号20330027）
 2008年 - 2010年 慶應義塾大学東アジア研究所「アジアにおける大統領制の比較研究」
 2007年、2008年 世界銀行短期コンサルタント
 2004年 - 現在 アジア政経学会雑誌『アジア研究』編集委員
 2003年 - 2004年 国際協力事業団ミンダナオ支援委員会委員
 2000年 - 2003年 平成13年度～14年度科学研究費補助金（基盤研究C(1)）「フィリピン地域社会経済の学際的研究：行為主体と制度的枠組みの相互作用を中心として」（課題番号13630068）
 2011年 - 現在 『アジア経済』編集委員
 1999年 - 2001年

所属学会： 日本政治学会、日本比較政治学会、アジア政経学会、American Political Science Association

(2011年8月現在)

著作・報告

(2011年8月現在)

著作：

Power in a Philippine City, Chiba, Institute of Developing Economies, 2002.

編著：

『ポスト・エドサ期のフィリピン』アジア経済研究所、2005年。

学術誌論文・研究ノート等：

「新興民主主義の不安定：勝利連合の変更と制度からの逸脱」（論文）『アジア経済』第52巻第1号、2011年1月：2-23。

「政治制度と政策帰結：予算策定過程における大統領拒否権の効果」（論文）『アジア経済』第51巻第7号、2010年7月：2-24。

「新興民主主義の安定をめぐる理論の展開」（研究レビュー）『アジア経済』第50巻第12号、2009年12月：55-75。

「政治制度形成の論理：新興民主主義国の制度分析にむけて」（研究レビュー）『アジア経済』第48巻第2号、2007年2月：20-43。

「民主主義の制度変更：フィリピンにおける議院内閣制導入論をめぐる」（研究ノート）『アジア経済』第46巻第3号、2005年3月：23-41。

“The State and Institutions in Philippine Local Politics,” (review article). *Philippine Political Science Journal*, Vol.22, No.45, 2001: 135-148.

「フィリピン地方政治研究における国家中心的アプローチの展開」（書評論文）『アジア経済』第42巻第2号、2001年2月：45-58。

「フィリピン地方都市における権力メカニズム：ナガ市の事例」（論文）『アジア経済』第41巻第1号、2000年1月：2-33。

学術書の章：

「フィリピンの大統領制：大統領と議会のバーゲニングとその政策帰結への影響」粕谷祐子編『アジアにおける大統領制の比較政治学：憲法構造と政党政治からのアプローチ』ミネルヴァ書房、2010年：61-81。

- 「フィリピン：特権をめぐる政治と経済」片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣、2006年：165-185。
- 「ポスト・エドサ期のフィリピン：民主主義の定着と自由主義的経済改革」川中豪編『ポスト・エドサ期のフィリピン』アジア経済研究所、2005年：11-62。
- 「フィリピン政治と民主主義」関根政美・山本信人編『現代東アジアと日本4 海域アジア』慶應義塾大学出版会、2004年：157-174。
- 「フィリピンの大統領制と利益調整」日本比較政治学会編『日本比較政治学年報第6号：比較のなかの中国政治』早稲田大学出版部、2004年：157-180。
- 「国家資源支配の制度と過程」西村知・川田牧人編『制度を生きる人々：フィリピン地域社会経済の学際的研究』鹿児島大学多島圏研究センター、2003年：31-64。
- 「フィリピンの地方分権改革」作本直行、今泉慎也編『アジアの民主化過程と法』アジア経済研究所、2003年：243-272。
- 「フィリピンの民主化と制度改革」作本直行、今泉慎也編『アジアの民主化過程と法』アジア経済研究所、2003年：21-40。
- “The Philippines: From Agents to Political Actors,” in Shinichi Shigetomi ed., *The State and NGOs: Perspective from Asia*, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 2002 : 110-124.
- 「フィリピン：代理人から政治主体へ」重富真一編『アジアの国家とNGO：15カ国の比較研究』明石書店、2001年：136-155。
- 「フィリピン——エリート支配とその限界」佐藤宏・岩崎育夫編著『アジア政治読本』東洋経済新報社、1998年：151-166。
- 「フィリピン：『寡頭支配の民主主義』その形成と変容」岩崎育夫編『アジアと民主主義：政治権力者の思想と行動』アジア経済研究所、1997年：103-140。
- 「フィリピンの官僚制」岩崎育夫・萩原宜之編『ASEAN 諸国の官僚制』アジア経済研究所、1996年：79-120。
- 「東南アジア諸国とAPEC」宮智宗七・大西健夫編『APEC：日本の戦略』早稲田大学出版部、1995年：92-110。

書評：

“Alberto Diaz-Cayeros, *Federalism, Fiscal Authority, and Centralization in Latin America*, Cambridge University Press, 2006.” *Developing Economies*, vol.45,

no.3, 2007: 386-390.

“Alberto Diaz-Cayeros, *Federalism, Fiscal Authority, and Centralization in Latin America*, Cambridge University Press, 2006.” 『アジア経済』第48巻4号、2007年4月：118-122。

“Thomas M. McKenna, *Muslim Rulers and Rebels: Everyday Politics and Armed Separatism in the Southern Philippines*, Berkeley : University of California Press, 1998”. 『アジア経済』第40巻9/10号、1999年9-10月：213-216。

“Patricio N. Abinales, ed. *The Revolution Falters: The Left in Philippine Politics after 1986* Ithaca, N.Y. : Southeast Asia Program Publications, Cornell University, 1996.” 『東南アジア研究』35巻1号、1997年6月：160-163。

文献サーベイ：

「日本における発展途上地域研究 1986～94・地域編：フィリピン」（永野善子と共著）『アジア経済』第36巻第6/7号、1995年6/7月：72-83。

ワーキング・ペーパー／ディスカッション・ペーパー

“Establishing Electoral Administration Systems in New Democracies.” IDE Discussion Paper No. 305. August 2011 (with Yuki Asaba).

“The Urban Middle Class in the Instability of New Democracies.” IDE Discussion Paper Series No. 260. November 2010.

“Political Institutions and Policy Outcomes: Effects of Presidential Vetoes on Budget Making.” IDE Discussion Paper Series No. 240. June 2010.

“Interaction of Powers in the Philippine Presidential System.” IDE Discussion Paper No. 233. April 2010.

“Political Conditions for Fair Elections” IDE Discussion Paper No.181. November 2008.

“Who Eats the Most? Quantitative Analysis of the Pork Barrel Distributions in the Philippines.” IDE Discussion Paper No.126. October 2007.

評論・その他：

「途上国政治研究の地平：特集にあたって」『アジア研ワールド・トレンド』第190号、2011年7月号：2-3。

- 「どうすれば民主主義は安定するのか？」『アジア研ワールド・トレンド』第 190 号、2011 年 7 月号：4-7。
- 「2008 年のフィリピン：和平交渉の頓挫とコメ騒動」（鈴木有理佳と共著）『アジア動向年報：2009 年版』アジア経済研究所、2009 年：283-310。
- 「和平合意とクレディブル・コミットメント」『アジア研ワールド・トレンド』第 136 号、2007 年 1 月号：28-31。
- 「アジアの選挙：国政選挙の一年」『アジア動向年報：2005 年版』アジア経済研究所、2005 年：11-16。
- 「ポピュリズムをめぐる二極対立：2004 年フィリピン大統領選挙」『南山大学アジア研究センター報』第 2 号、2005 年 3 月：59-65。
- 「政治不信か、混乱への懸念か：2004 年フィリピン大統領選挙」『国際問題』、2004 年 10 月号、no.535：46-57。
- 「2003 年のフィリピン：総選挙に向けた一年」（鈴木有理佳と共著）『アジア動向年報：2004 年版』、アジア経済研究所、2004 年：297-326。
- 「第 2 期アロヨ政権の船出」『世界週報』2004 年 6 月 15 日号：54-55。
- 「フィリピン型ポピュリズムの台頭」『世界週報』2004 年 2 月 3 日号：48-49。
- 「アロヨ大統領は再選を目指すのか？」『世界週報』2003 年 8 月 5 日号：36-37。
- 「2002 年のフィリピン：『強い共和国』は実現できるか？」（鈴木有理佳と共著）『アジア動向年報：2003 年版』、アジア経済研究所、2003 年：293-322。
- 「フィリピン：アメリカ支持の政府、アメリカ批判のメディア、家族を案ずる国民」松井和久・中川雅彦編『アジアが見たイラク戦争：ユニラテラリズムの衝撃と恐怖』、明石書店、2003 年：87-90。
- 「アロヨ政権下でも深刻化する財政赤字問題」『世界週報』2002 年 12 月 17 日号：46-47。
- 「2001 年のフィリピン：アロヨ大統領、政権安定に向け苦闘」『アジア動向年報：2002 年版』、アジア経済研究所、2002 年：295-324。
- 「フィリピン：対アブ・サヤフ作戦の影に隠れたもう一つのテロ問題」『世界週報』2002 年 4 月 2 日号：46-47。
- 「フィリピン：アメリカ全面支持の政府に対し、その具体的な行動を巡って議論」重富真一・中川雅彦・松井和久編『アジアは同時テロ・戦争をどう見たか』、明石書店、2002 年：87-90。

- 「フィリピンのイスラム過激派アブ・サヤフ」『世界週報』2001年12月11日:54-55。
- 「2000年のフィリピン: エストラダ政権崩壊への過程」『アジア動向年報: 2001年版』アジア経済研究所、2001年: 291-318。
- 「フィリピン: エドサⅡの政治過程」『アジ研ワールド・トレンド』第70号、2001年7月号: 6-10。
- 「政権安定に向けたアロヨ大統領の闘い」『世界週報』2001年6月12日: 52-53。
- 「フィリピン: 古くて新しい? スパイス・ボーイズ」『アジ研ワールド・トレンド』第66号、2001年3月号: 8-9。
- 「共産主義勢力: 第三の時代に入った左翼運動」大野拓司・寺田勇文編『現代フィリピンを知るための60章』明石書店、2001年: 190-193。
- 「地方政治: 地方支配のメカニズム」大野拓司・寺田勇文編『現代フィリピンを知るための60章』明石書店、2001年: 165-168。
- 「フィリピンの大統領弾劾裁判の行方」『世界週報』2000年12月19日: 50-51。
- 「フィリピン: 代理人から政治主体へ」『アジ研ワールド・トレンド』第59号、2000年8月号: 26-29。
- 「1999年のフィリピン: 支持率低下に悩むエストラダ政権」(鈴木有理佳と共著)『アジア動向年報: 2000年版』アジア経済研究所、2000年: 287-312。
- 「フィリピンを揺るがすミンダナオの危機」『世界週報』2000年7月4日: 42-43。
- 「開発と地方: フィリピン」『アジ研ワールド・トレンド』第53号、2000年1/2月: 94-96。
- 「早くも限界露呈? エストラダ・スタイル」『世界週報』1999年12月14日: 56-57。
- 「1998年のフィリピン: 新政権の誕生と足踏みした経済」(鈴木有理佳と共著)『アジア動向年報: 1999年版』アジア経済研究所、1999年: 289-314。
- 「反政府勢力対策に強気のエストラダ大統領」『世界週報』1999年4月20日: 50-51。
- 「フィリピン: 多言語化、それとも言語の喪失?」『アジ研ワールド・トレンド』第42号、1999年1/2月: 9-10。
- “The Robredo Style: Philippine Local Politics in Transition,” *Kasarinlan*, Vol.13, No.3, 1998: 5-36.
- 「内部対立を克服できるかエストラダ新政権」『世界週報』1998年11月13日: 40-41。

- 「地方選挙——ナガ市から」『アジア研ワールド・トレンド』第35号、1998年6月：46-47。
- 「『トラボ』から『グワポ』へ——地方政治に吹く新しい風——」『アジア研ワールド・トレンド』第22号、1997年4月：46-47。
- 「『中央集権的行政』と『地方割拠的政治』のダイナミズム」『アジア研ワールド・トレンド』第15号、1996年8月：14-15。
- 「1995年のフィリピン：ラモス政権、問題に直面しつつも折り返し点通過」『アジア動向年報：1996年版』アジア経済研究所、1996年：323-348。
- 「継続と変化：フィリピン中間選挙の意味するもの」『アジア研ワールド・トレンド』第6号 1995年7/8月：109-114。
- 「1994年のフィリピン：政治、経済ともに安定を回復」『アジア動向年報：1995年版』アジア経済研究所、1995年：291-314。
- 「1995年アジア経済の展望：フィリピン」『アジアトレンド』1995年I第69号：20-21。
- 「ラモス政権下の行政改革：開発の土台形成に向けた試み」『アジアトレンド』1994年IV第68号：33-44。
- 「ラモス政権の国内和平政策と反政府勢力の動向」『アジアトレンド』1994年I第65号：59-77。
- 「1994年アジア諸国経済概況：フィリピン」『アジアトレンド』1994年III第67号：54-55。
- 「1993年のフィリピン：開発にむけた合意形成の一年」（野沢勝美と共著）『アジア動向年報：1994年版』アジア経済研究所、1994年：291-320。
- 「1993年アジア諸国経済概況：フィリピン」『アジアトレンド』1993年III第63号：60-62。
- 「南部フィリピンのムスリム」『アジア研ニュース』1993年9月号：27-29。

未公刊：

- 「東南アジアの選挙と政党」中村正志編『東南アジア政治制度の比較分析』調査研究報告書 アジア経済研究所、2011年：.23-29。
- 『調査研究報告書：新興民主主義の安定』アジア経済研究所、2009年。
- “The Politics of Budgeting: Congressional – Executive Relations during Budget Formulation.” background paper, the World Bank. 2007.
- “Rational Choice for Policy Studies: A Game Theoretic Analysis of Peace Process.”

Paper presented at the Seminar of the Ateneo School of Government, 2007

- 『調査研究報告書：民主化後のフィリピン政治経済資料集』アジア経済研究所、2004年。
- 『フィリピンにおける国家と地方権力』神戸大学大学院国際協力研究科提出博士論文、2004年。
- 「予算の政治：国家資源分配の制度と過程」『フィリピン地域社会経済の学際的研究：行為主体と制度的枠組みの相互作用を中心として』平成13年度～平成14年度科学研究費補助金研究成果報告書、2003年。
- 「比較政治学における地方政治研究」『平成13年度基礎理論研究会成果報告』アジア経済研究所、2002年。
- 「フィリピン：反テロリズム行動への関与の仕方を巡り意見対立」アジア経済研究所地域研究第1部編『[緊急レポート]同時多発テロをアジアはどう見たか…各国の新聞論調から…』アジア経済研究所、2001年。
- 「フィリピン：代理人から政治主体へ」重富真一編『調査研究報告書：国家とNGO：アジア15カ国の比較資料』アジア経済研究所、2000年。
- 「地方権力構造の分析枠組み：フィリピン地方政治研究における試み」岩崎育夫、河森正人、川中豪編『調査研究報告書：アジア諸国における地方政治の構造』アジア経済研究所、1999年。

報告：

- “Instability of New Democracies: Change of the Winning Coalition and Deviation from Institutions” The Second Philippine Studies Conference of Japan, Tsukuba International Congress Center, Tsukuba, November 13, 2010.
- “The 2010 Philippine Elections: Towards Democratic Consolidation or Continuing Instability?” The Southeast Asia Speaker Series. Center for Southeast Asian Studies and Center for Philippine Studies, University of Hawai'i at Manoa, Honolulu, Hawaii, September 15, 2010.
- 「新興民主主義の不安定：都市偏重の遺産、勝利連合の変更、都市の反乱」自由企画2「新興国の政治的不安定化」2010年度日本比較政治学会研究大会、東京外国語大学、2010年6月19日。
- 「政治制度と政策帰結：予算策定過程における大統領拒否権の効果」自由企画4「アジアにおける大統領と議会」日本比較政治学会2009年度研究大会、京都大学吉田キャンパス、2009年6月27日。
- 討論、自由論題3「東南アジアにおける『民主主義体制』」日本比較政治学会2008年度研

究大会、慶應義塾大学日吉キャンパス、2008年6月21日。

Discussant of the panel of “Next Populism or Post Populism?: Thai Politics and Japanese Experience,” Workshop on “Populism in Asian Clothes ; Thailand and Southeast Asia in Comparative Perspective,” Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University, Kyoto, March 7, 2008.

討論、「フィリピンの民主主義と市民社会」第5回慶應義塾大学 21COE-CCC 国際シンポジウム「多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成—多文化世界における市民意識の動態—」慶應義塾大学 三田キャンパス 東館 2007年11月24日。

“Rational Choice for Policy Studies: A Game Theoretic Analysis of Peace Process” the Seminar of the Ateneo School of Government, Rockwell, Makati, Philippines. June 7, 2007.

“Explaining Policy Outcomes in the Philippines: Is the President too Strong or Is Congress?” Southeast Asia Forum, Walter H. Shorenstein Asia-Pacific Research Center, Stanford University, USA, May 1, 2006.

“Political Institutions and Fiscal Policy in the Philippines,” Friday Forum, Center for Southeast Asian Studies, University of Wisconsin – Madison, Madison, Wisconsin, USA, March 3, 2006.

“The 1994 Electoral Reform in Japan: An Attempt to Build a Strong Two Party System,” Workshop on Political Reform and Charter Change in the Philippines: Perspectives from the Nation and the Region, Eugenio Lopez Center, Antipolo City, the Philippines, July 8, 2005. (ペーパーのみの参加)

討論、分科会2「地方分権化インドネシアにおける地方政治の変容」アジア政経学会 2004年度西日本大会、同志社大学にて、2005年6月11日。

「ポピュリズムをめぐる二極対立：2004年フィリピン大統領選挙」南山大学アジア研究センター2004年度アジアシンポジウム「選挙から見るアジアの政治変動」、南山大学名古屋キャンパスにて、2004年11月20日。

「パフォーマンス、安定、利益：フィリピンにおける議院内閣制導入論」日本比較政治学会 2004年度研究大会分科会4「執政の変容：新興大統領制民主主義国における制度改革の政治」、法政大学にて、2004年6月27日。

「予算過程の政治：国家資源分配の制度と過程」鹿児島大学多島圏研究センター多島域フォーラム「制度を生きる人々：フィリピン地域社会経済の学際的研究」、鹿児島大学にて、2002年12月21日。

「フィリピンの政治空間と NGO」日本政治学会 2001年度研究大会分科会 G「アジアの政治空間と NGO」、立教大学にて、2001年10月14日。

「エストラーダ政権崩壊の政治過程」アジア政経学会 2001 年度東日本大会共通論題Ⅱ「政治腐敗と政権交代：アジア新時代の指導体制」、山梨学院大学にて、2001 年 6 月 9 日。

Discussant of the panel of “Political Economy” in the Tokyo Philippine Seminar 2001, at Sophia University, Tokyo, Japan on May 11, 2001 (Presentations: Temario Rivera, “Political Clans and the Philippine State: A Rethinking; Midori Kawashima, “Rethinking the Bangsa Moro Revolution: The Rise of Political Islam and its Implications for the liberation of the Muslim Masses.”).

“Political Machine in an Alternative Perspective: A Case of Naga City,” The 6th International Philippine Studies Conference, at Philippine Social Science Center, Quezon City, the Philippines on July 11, 2000.

「フィリピンの地方分権改革」日本比較政治学会 2000 年度研究大会分科会Ⅰ「アジアの地方分権改革」報告、京都大学にて、2000 年 6 月 25 日。

「フィリピン地方都市における権力構造 —— ナガ市の事例から ——」アジア政経学会 1999 年度東日本大会自由論題報告、敬愛大学国際学部にて、1999 年 5 月 29 日。

“The Robredo Style: Philippine Local Politics in Transition,” Lecture Series on Political Science, sponsored by Department of Political Science, College of Social Sciences and Philosophy, University of the Philippines, Diliman, at Recto Hall, Faculty Center, UP Diliman, Quezon City, the Philippines, on June 19, 1998.

“The Robredo Style: Philippine Local Politics in Transition,” Lecture Series on Bicol Culture and Development, sponsored by Ateneo Center for Bicol Studies and Ateneo de Naga Graduate School, at Naga City, the Philippines, on March 14, 1998.